

周南市議会志高会 会派視察報告

令和5年11月1日～2日

福田健吾

佐々木照彦

岩田淳司

土屋晴巳

吉安新太

※藤井康弘は所用のため欠席

会派視察所感＜熊本県阿蘇郡小国町 小国公立病院＞

視察事項: オンライン診療の導入について

小国公立病院は、小国町と南小国町による小国郷公立病院組合(一部事務組合)により運営されており、二次救急から在宅医療(訪問診療)、老健施設、訪問看護ステーションと地域密着型多機能病院としての機能を有している。

地域としての小国郷は、熊本市と同程度の広さに約1万人の人口、ということは広大な範囲に集落が点在しているということであり、高齢化率は40%を超えている。さらに地域課題として、公共交通が不十分であり免許返納者を含め通院に係るタクシー代が負担になっている。

医療供給体制としては、開業医は2院しかない。ということは、小国公立病院が地域医療の中心的役割を負っているといえる。また、慢性的なスタッフ不足で小国郷内だけでは、多くの職種が賄えていないとのことであるが、慢性的なスタッフ不足は小国郷に限ったことではない。ちなみに小国公立病院の常勤医師は内科医5名、外科2名、小児科1名で熊本大学医学部からの派遣である。看護師は51名。オンライン診療担当看護師は2名が担う。

以上のような環境であれば、昨今のデジタル社会の進展により、オンライン診療の導入は必然的であり、本年12月に開始予定である。導入に向けては事業費84,235千円の小国郷医療MaaS・DX推進事業を立ち上げている。事業費の1/2は、令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金を活用している。このような交付金があることは知らなかった。よく探したものだ。閉院していた元民間クリニックを小国郷医療MaaS・DX推進事業の拠点

サテライト診療所として改修している。このサテライト診療所の患者データは、小国公立病院と共有とされている。

オンライン診療の運用方針としては、

- ・ 1 週間に 2 日の実施で、2 か月後には小国卿全てを網羅。（開催場所の事前告知）

- ・ 対面診療とオンライン診療は 1:1 つまり、2 回に 1 回は対面診療。（オンライン診療の対象は、慢性疾患ではあるが、対面診療との兼ね合いは大変興味があった。2 回に 1 回がオンライン診療となると患者側の経済的負担も助かる）

- ・ オンライン診療の診療報酬は、対面診療より低い算定（△約 20%）のため、訪問診療と抱き合わせた形態。（オンライン診療報酬が、対面診療より低いということは知らなかった。）

- ・ 薬、服薬指導は、処方箋を患者が指定する薬局に FAX またはメール、患者、もしくはその家族が診療所で受け取り、患者宅に郵送から患者が選択できるようになっている。（薬、服薬指導は、オンライン診療の課題であるが、よく考えられている。）

視察日が 11 月 1 日だったため、車両は見られなかったが、ボディデザイン案としては、小国町出身の北里柴三郎先生のイラストを考えられている。小国町が日本医師会の初代会長の北里柴三郎の生誕の地とは知らなかったが、最適任である。

小国卿医療 Maas・DX 推進事業は、デジタル情報・知識に精通されている医師でもある病院事業管理者が牽引されているが、このような存在がなく

ては医療 DX は進まないのも事実である。

オンライン診療の導入実績はまだ少数であるが、更なる人口減少、高齢化によりオンライン診療は間違いなく広がっていく、広がざるを得ないと思う。本市においても周南市立新南陽市民病院にオンライン診療の導入計画がある。今回の視察は大変勉強になった。

会派視察所感＜福岡県遠賀郡芦屋町＞

視察事項：Boat Kids Park Mooovi 芦屋について

2. 所感

まず現地に到着して感じたことは、ボートレース施設が市街地郊外にあるため、普通車 5,077 台、大型車 45 台のとても広い駐車場を備えており、ボートレース芦屋の施設そのものも全体的に天井が高くゆったりと開放感があるという雰囲気であった。

その天井の高い施設の西プラザ内に令和 3 年度ボーネルンド社の大型遊具スーパースフィアを自前約 2 億 8, 0 0 0 万円で設置し、振興会からの支援約 1 億円によりクライミングやその他の遊具も充実させていた。また従前より屋外に設置していた子供向け施設「わくわくひろば」も自前約 2 億 5, 0 0 0 万円かけ改修し、これらの複合により、小さな子ども連れの家族が半日は十分楽しめるであろう施設になっていた。

料金は入場大人も子供も 3 0 0 円で、平日は終日遊び放題だが、土日祝は 1 0 0 分ごと 3 クールの完全入れ替え制としており、開設年の令和 3 年度で約 3 5, 0 0 0 人、4 年度で約 7 5, 0 0 0 人、

5年度は9月末までで約44,000人を集客しており、その集客内訳も北九州市から34%、福岡市から15.5%であり、近隣自治体から目的をもってここに遊びに来ていることが読み取れ、素晴らしいと感じた。

何よりボーネルンド社製の遊具はとてもやさしいデザインで夢が膨らむ感じがし、近年は全国どこでも夏場の酷暑が毎日続く中、こういった屋内遊戯施設を安価で子供連れ家族に提供できていることはたいへん地域貢献につながっていると感じた。

またこのボートレース芦屋内には一般席700席ほどを有する本格的なイベントホール「あしや夢リアホール」も併設されており、これを市民に1時間5,000円程度での貸し出しをしており、芦屋町の成人式などや市民カラオケ大会などが催されているとのこと
でたいへんうらやましく感じた。

いまわが市のボートレース事業も好調で多くの金額を一般会計に繰り出しているが、ボートレースそのものがレジャーとして市民に親しんでもらおうとするならば、わが施設内にもこういった屋内での遊戯施設や市民が集いやすい施設の整備は非常に有効になるのではないかと感じる。非常に勉強になる視察であった。